

高知の和紙が世界のアートに変わる時代とともに変化する和紙の新しい姿

内外典具帖紙株式会社

<http://www.naiten.com/>

▶進出国
ドイツ



PROFILE 企業情報

- 所在地: 高知県吾川郡いの町
- 業種: 紙製品製造業
- 資本金: 1,000万円
- 創業: 明治10年頃 ●従業員数: 7人



時代のニーズに沿った商品開発

高知県吾川郡いの町は、約1000年以上の歴史がある伝統工芸品、「土佐和紙」の産地である。同社は明治10年頃から、手漉き和紙職人を集めて典具帖紙の製造を始めていた。昭和30年代になると、薄く弾力性のある典具帖紙はタイプライター原紙として大量に生産されるようになる。昭和40年代には、同社も機械を導入し大量生産体制に入った。その後、ワープロの台頭によりタイプライター原紙の需要が落ち着くと、障子紙や書道半紙が当社の主力商品となっていく。

しかし、商品のニーズは時代とともに目まぐるしく変化する。障子紙等の需要は減少し、同社は新たな商品開発の必要性に迫られ**個人消費者が日常で使えるものを商品開発**してみるようになった。そこで、当社では、巻き和紙の開発に力を入れる。消費者に手にとってもらいやすいように、商品のパッケージやポスターのデザインを現代風にアレンジするなど工夫をこらした。開発された「土佐まき和紙」は絵手紙や絵日記など様々な用途で利用可能であり、ユーザーから高い評価を受けるに至



る。その結果、2013年度に「高知県地場産業奨励賞」、2016年には「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選出され、メディアからの取材も受けるようになった。

昭和30年代から始まった海外展開

そんな同社が海外展開を始めたのは昭和30年代に遡る。タイプライター原紙としてドイツ、フランス、アメリカに典具帖紙を輸出した。「日本の商社を介さない直接取引は、1971年にヨーロッパの総合商社からお話があり、1千万円の試験注文をいただいたのが始まりだったと先代から聞いています」(土居晶子取締役)。

昭和50年代、**海外での典具帖紙の用途はタイプライター原紙から美術品や古文書の修復紙へと変化する**。この修復紙が、今もなお、当社の海外向け主力商品である。その後、海外の取引先が増え、修復紙の売上が増加しただけでなく、アメリカや中国からはアート作品に同社の和紙を使いたいとの話もあった。「**和紙は表具の紙に使うものと思っておりましたが、アーティストの手によって思いもよらない姿に変わります**。今は、版画や水墨画に使う美術用の和紙としての販路も見えてきています」と語る岡恭子社長。創業時から国内と海外でのビジネス展開を目指してつけられた社名の「内外」は、21世紀を迎えて新たな意味を持ち始めた。



「内外シスターズ」の岡恭子社長と土居晶子取締役。30m、60mの巻き和紙は、好きな長さにカットできるので、飲食店のメニューから趣のある建具など、アイデア次第で様々な用途に活用できる



海外展開のヒントをうかがいました

Q 先代社長はなぜ海外展開を考えたのか？

父である先代の口癖は、「時代は常に変化する」でした。そのとき勢いのある事業もやがて形が変わることや、国内需要だけに目を向けては、いつか限界が来ることを見越していたのだと思います。丈夫で劣化しにくい和紙を提案する姿勢が常にありました。

Q 海外とのやり取りはどのように？

以前は通訳の方をお願いしておりましたが、現在は自社で英語を使ってやり取りしています。ドイツの商社とはお付き合いも長いので、ある程度日本語が通じます。品物は、インボイスを書き、木箱に入れるまでは社内で行い、貿易専門の運送会社に依頼して神戸港からの船便に載せます。

Q 海外との取引で重要なこととは？

現地に足を運び、お客さまのニーズを肌で感じることです。また、品質を守り、信用を得ることも大切です。たとえば、クレームがあったときは、先代がすぐに渡航していました。私たち姉妹の代になってからも、市場調査や商談、また和紙がどのように使われているかを見るためにドイツに行きました。その際、日本公庫の海外展開・事業再編資金を利用しました。



Interview 我が社の「イズム」

海外展開を検討する企業の方へ



**お客さまと直接つながることで
新商品開発のアイデアが湧いてくる**

岡 恭子氏
◆内外典具帖紙 株式会社 代表取締役

土佐和紙は、昔から障子や掛け軸などの表具に使われてきました。しかし、近年は和室さえない家庭が増えています。その結果、当社は新たな販路を開拓しなければなりません。そのため、お客さまと直接お会いして、和紙の新たなニーズを汲み上げる必要がありました。実際にお客さまが紙をつかう現場に足を運ぶと、商品開発のヒントも見えてきます。今後、さらに海外との取引を拡大するためには、国ごとの和紙の用途や、流通価格の相場を探る必要性を感じています。

私たちの会社は、ものづくりの経験と技術には自信があります。まずは品物を手に取っていただくために、海外であろうと飛び込んでいこうという気持ちです。

